

---

## V 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC +（プラス））、FD活動及び授業アンケート

### 1. 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）

地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）は、大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした文部科学省の事業であり、2013年度（平成25）には全国の各大学等から319件の申請があり、52件が採択され、2014年度（平成26）には237件の申請があり、25件が採択された。

COC事業の期間は5年間であり、本学は2013年度（平成25）に採択され、2017年度（平成29）まで実施した。

本学のCOC事業では、地域の課題に対して広く教育・研究・社会貢献の観点から全学を挙げて取り組むこととし、地域に役立つ技術者マインド「工学心」を持ち、地域課題を解決できる学生の育成を図るなど、「地域協働型大学」の構築を目指した。

教育、研究、社会貢献ごとに地域課題解決に向けたこれまでやこれからの取り組みについて次のとおり示す。

教育については、各年次のカリキュラムに「地域協働科目」を設定し、在学中に地域との交流・対話・協働により地域の課題解決を目指す「地域協働授業」を受講できるようにしている。その成果は、半期ごとに開催される「地域協働授業成果発表会」にて発表している。

研究については、県・市町村や県内企業等と連携しながら、本学の研究シーズを活かした地域産業の振興や地域課題に対応した研究活動を進めてきた。今後も、地域課題を志向した研究活動を進めるとともに、学生を積極的に参画させ卒業研究等に結び付くようにしていく。

社会貢献については、企業技術者の人材育成支援事業、生涯学習事業などの各種事業に取り組んできた。今後も、高齢者等の学習意欲に応える生涯学習事業、幼児から高校生まで幅広く科学を楽しく学び親しみを持ってもらえるイベント等の実施に努めるとともに、学生が積極的に参画することができるよう取り組みを進めていく。

採択されたCOC事業の終了後、2020年度（令和2）からは副学長をリーダーとする「地域協働推進チーム」を中心に地域協働授業を推進し、地域協働授業を行ううえでの自治体や地域団体との連絡・調整は地域協働コーディネーターが中心となって行っている。また、学生団体COCOSやその他の学生も主体の1つとなって地域との多様な協働を実施している。

## 2. 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+（プラス））

2015年度（平成27）に、県内全ての高等教育機関の連携の下、富山の地方創生に取り組む事業であるALL富山COC+（プラス）事業が、大学を拠点に地方創生を進める文部科学省の事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+（プラス））」に採択された。（2019年度（令和元）までの5ヵ年）

この事業では、県内で学ぶ学生たちの地元就職率10%アップを目指し、企業、自治体等と連携し、創造的な問題可決能力をもつ人材（未来の地域リーダー）の育成や、インターンシップの実施などに取り組んできた。

本学では、学生の社会参画力や課題解決力の育成を図るため、地域との交流・対話・協働などにより地域の課題解決を目指す演習を取り入れた「地域協働科目」のうち、「教養ゼミⅡ」、「トピックゼミⅠ」、「トピックゼミⅡ」及び「プレゼンテーション演習」を履修し、当該科目のGPAが3.0以上の学生を「未来の地域リーダー」と認定するとともに、認定者のうち、地域課題の解決に特に主体的に取り組んだ学生を「未来の地域リーダー 上級」に認定している。（初回は2017年（平成29）4月入学生に対し、2020年（令和2）3月末に付与）

さらに、大学院進学予定の4年生と博士前期課程1年生を対象に、課題解決型インターンシップ（課題を見つけ、グループワーク力とともに自ら解決しようとする力を養うためのインターンシップ）を実施しており、これらの取組みにより、地元就職率の向上に努めてきた。

## 3. FD活動

本学では、教育課題の検討や教員の教授技術及び意識の向上等を目的として、組織的かつ継続的にファカルティ・ディベロップメント（以下FD）活動を実施している。具体的には、全学的なFD研修会、学科等を単位とする小規模なFD活動、大学コンソーシアム富山が行うSD&FD研修会等が挙げられる。

このうち全学的なFD研修会の内容を下記の表2. 24に示す。

表2. 24 過去10年間の全学的なFD研修会の内容

年度	内 容
2010 平成 22	<p>テーマ：工学教育の目的とその共有化の試み</p> <p>午前の部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富山県立大学の工学教育への期待（パネルディスカッション）</li> <li>・環境教育の成果と今後の展望について（報告）</li> </ul> <p>午後の部 個別の課題に対する分科会</p> <p>第1分科会 新教育プログラムの取組み（講義・演習等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「物理学」再試験者に対する支援の試み</li> <li>・新英語カリキュラムの素案の開発</li> <li>・アカデミックスキルの獲得 大学の講義、ノート、レポート</li> <li>・復習を促すリメディアル講義支援システムの作成</li> </ul> <p>第2分科会 新教育プログラムの取組み（実験・実習等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究テーマの魅力発見ツアー</li> <li>・知能デザイン工学実験2における新テーマの提案と検証</li> <li>・時系列データの可視化ツールの開発による情報システム実験の改善</li> <li>・センサネットワークを用いた実践的なプログラミング教育</li> </ul> <p>第3分科会 新教育プログラムの取組み（フィールド活動（参加行動型教育））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり栽培によるバイオエネルギー実践教育</li> <li>・読書マラソン及び図書館を積極的に利用している授業への支援プログラム</li> <li>・ものづくり競技大会 in パステル工房</li> <li>・実践的ものづくり教育としての全日本学生フォーミュラ大会への参加</li> </ul>
2011 平成 23	<p>テーマ：授業を効果的にする教育プログラム</p> <p>午前の部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を効果的にするアイデアとその実践（基調講演）</li> <li>・企業社会で活躍できる骨太人材育成プラン」の進捗状況について（報告）</li> </ul> <p>午後の部 個別の課題に対する分科会</p> <p>第1分科会 授業内容の充実を図る教育プログラムの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PCを利用した視覚的な理解および統計学を基本にした化学生物学演習・実験の構築</li> <li>・新英語カリキュラムの素案の開発</li> <li>・知能デザイン工学実験2における新テーマの試行</li> <li>・3次元動作計測技術を習得するための新規学生実験プログラムの開発と実施</li> </ul> <p>第2分科会 学生の授業への理解度を高める教育プログラムの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院専門基礎科目のフォローアップ</li> <li>・アカデミックスキルの獲得 大学の講義、ノート、レポート</li> <li>・専門講義内容に直結したソフトウェア開発同時進行講義の提案</li> <li>・復習を促すe-ラーニングシステムの改良とインタラクティブ・レポート活用システムの開発・試行</li> </ul> <p>第3分科会 学生の自主性を高める教育プログラムの取組み（フィールド活動（参加行動型教育））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習相談室制度による「学習スキル」獲得の支援</li> <li>・教育支援および学習支援図書館としての更なる試み 「生涯読書」第一歩への支援</li> <li>・ものづくり競技大会 in パステル工房</li> </ul>
2012 平成 24	<p>テーマ：ゆとり世代に対する県立大での大学教育 各学科における教育の現状、問題及び取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教育の課題</li> <li>・各学科の教育の現状、問題及び取組みについて</li> </ul>
2013 平成 25	<p>テーマ：工学心を育むために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学改革の動向と本学の教育課題</li> <li>・地（知）の拠点整備事業について</li> <li>・各学科の教育の現状、問題及び取組みについて</li> </ul>

年度	内 容
2014 平成 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学の教育への想い</li> <li>・ C O C の取り組みについて</li> <li>・ キャリアセンターの取り組みについて</li> <li>・ 授業改善チームの取り組みについて</li> <li>・ 各学科の教育の現状、問題及び取り組みについて</li> </ul>
2015 平成 27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等教育機関における障害学生支援 発達障害のある学生への合理的配慮について</li> <li>・ 富山県立大学での相談室実績と今後の展望</li> <li>・ 学生生活実態調査における新展開 成績データとの同時分析の試み</li> <li>・ 論理的な日本語表現を求めて</li> <li>・ ゼミにおけるビブリオバトルの実践</li> <li>・ アクティブラーニング教室を利用した演習 予習した学生が他の学生へ教える演習</li> </ul>
2016 平成 28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私が望む本学の姿</li> <li>・ 本学の国際交流について</li> <li>・ 本学の英語教育を振り返って</li> <li>・ 新しい英語教育の試行</li> <li>・ 英語で行う講義（院）を目指した英語学習プログラム（新教育プログラムより）</li> <li>・ 国費留学生の招聘方法</li> <li>・ C O C 全般について</li> <li>・ 地域協働授業の実施マニュアル作成</li> <li>・ 高等学校新学習指導要領に対応した基礎科目系の講義内容の改善と教材の開発</li> <li>・ 学生間での持続的な技術英会話指導を伴う T E D × T P U の立ち上げ</li> <li>・ 環境リテラシー習得のための体験学習の充実</li> <li>・ 図書館学生支援隊による工学心・学生力向上プログラム</li> <li>・ 学生生活実態調査に関する報告</li> </ul>
2017 平成 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学長講演</li> <li>・ 学生の主体的・協動的な学びをもたらす反転授業</li> <li>・ 本学の英語教育と学生の「英語力」平成 29 年度版</li> <li>・ 学生自身による小型模型用エンジンの分解・組立を通じた機構学の学び教育プログラムの開発</li> <li>・ 学科全学生を対象としたレポート作成指導システムの構築</li> <li>・ 生化学・分子生物学のより高度な理解と実験技能習得を可能とする講座連携型実習プログラムの開発と試行</li> </ul>
2018 平成 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学の大学院改革について</li> <li>・ 「主体的な学び」を推進するために 3つのキーワードをてがかりに</li> <li>・ 本学の英語教育と学生の「英語力」平成 30 年度版</li> <li>・ 「線形代数」関連講義の改善と改訂指導要領に関する基礎調査</li> <li>・ キャリアセンターにおける就職・進学支援</li> </ul>
2019 令和元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育にいかせ研究</li> <li>・ 県内定着率と大学院進学率の一体向上および講義科目の学習意欲向上を目指した「授業での県内企業研究紹介」</li> <li>・ 1年教養ゼミで学生の「主体性」を引き出す 企業人と創るキャリア教育プログラム</li> <li>・ 学生のメンタルヘルスについて</li> </ul>

---

## 4. 授業アンケート

学生への授業アンケートは、2001年度（平成13）から行っている。授業の良い点、改善を要する点を学生の理解度・授業の興味喚起度と関連した形で把握することで、質の高い教育を図る目的で行っており、「講義・演習」「実験・実習」の2種類のアンケートを実施している。

2015年度（平成27）後期からは、機械システム工学科を除く工学部の講義・演習のアンケートについて、各教員（非常勤講師含む）は、1年（前期または後期）に少なくとも1科目の授業アンケートを行い、各科目は、概ね3年に1回授業アンケートが行われるように抽出する。この2点を条件に全数調査から標本調査に変更した。

アンケートはマークシートが主であるが、授業で改善を要望する点について記述する欄も設けてあり、学生の意見も汲み取っている。

アンケートの全体の結果は、教務委員会で報告後、学生掲示板等に掲示している。担当教員には、全体、分野の結果とともに担当講義の結果を通知し、担当教員は授業の方法や内容の改善に活かしている。